

神戸新聞読者クラブ

奥さま手帳

毎月、兵庫を再発見。

2012年

8月号

NO.469

本の世界へ。
兵庫をつづつた
物語を訪ねて。



古里のなまり懐かし。
熱くなる、ライブ空間。
甲子園球場散歩。



本の世界へ。 兵庫をつづつた 物語を訪ねて。

古典文学から話題作まで、多くの小説が兵庫を舞台に描かれている。魅力的な物語の中で、あの風景はどう描かれているか…舞台となった町を訪ねて、活字の世界にひたりながら想像を膨らませて歩いてみよう。兵庫を再発見するきっかけになるはず！

撮影／青木崇 沖本明 貝原弘次 前田博史
取材文／伊藤順子 新谷慶子 増田恵 牧野しのぶ

「作品ごとのあらすじや見どころをまとめた文学散歩のマップも用意。歩いて発見をと義根さん。秋は田辺聖子展を予定。」



明治期に関西学院大学のチャペルとして建てられた煉瓦づくりの建物。6年前、神戸ゆかりの近代作家を中心に紹介する「神戸文学館」に生まれ変わった。「開港と同時にいち早く西洋文化を取り入れた神戸には、港町特有のエキゾチズムやモダニズムが成熟。海と山の間にある美しい街並みが広がり、路地に迷い込むと異国の香りが漂う…。」

作家にとって、何かを書かずにはいられない魅力があったのだからと学芸員の義根益美さん。大正時代、独自の軽やかな文筆で摩訶不思議な世界を紡いだ稲垣足穂もその一人。「彼は明石出身で関西学院大学に、贈した随筆家・岡部伊都子のように、神戸で暮らすことで新天地を開いた人物も少なくない。「神戸の港で外国船を眺め、沖繩の戦地へ旅立った婚約者を思った経験が、戦争や平和を願った作品を残すきっかけに。」

「神戸文学館」で知る、 本に描かれたふるさと兵庫。

思いのほか神戸を描いた作品の多さに驚くが、活字を追うことで頭に情景が広がり、世界に深く入り込めるのが読書の醍醐味。作品の舞台となった土地を巡ると、作家を惹きつけた神戸の街が身近に感じられそう。

神戸文学館 こうべぶんがくかん | 灘区



明治37年、イギリス人が設計した建物は、市内に現存する最古の煉瓦づくりの教会建築物としても貴重。常設展では明治から阪神・淡路大震災後までを6つの時代に分けて、作家の文学資料や愛用の品を、当時の神戸の写真とともに紹介。年に数回の企画展も好評。神戸を舞台に描いた作家の本が並ぶ「神戸の本棚」コーナーでは静かに読書が楽しめる。

王子動物園 王子 陸上競技場 神戸文学館 交番 阪急神戸線 王子公園駅 山手幹線 灘駅 JR神戸線

▷神戸市灘区王子町3-1-2
☎078-882-2028
午前10時～午後6時(土・日・祝日は午前9時～午後5時) 水曜(祝日の場合翌日) 休 @なし 道案内/電車→阪急王子公園駅から西へ徒歩約5分 車→阪神高速神戸線摩耶出口から北西へ約5分

優美な佇まいの外観。震災で失われたままだったチャペルの尖塔や、窓のブドウ模様のエッチングなど、古い写真をルーペで覗いて忠実に復元。礼拝堂だった展示室の天井を支えるのは、大きなアーチ型の梁。開放感たっぷり。

兵庫ゆかりの 文学検定に挑戦!

こちらはウェブ上の文学ミュージアム[兵庫文学館]。物語に描かれた兵庫について、文学館検定で力試しできる。まずは、初級編に挑戦してみてください!

Q1 「平家物語」より、屋島の合戦で、平家が出した沖の舟に揚げられた扇を見事射抜いた人物の名前は何か?
A. 那須与一 B. 源義経
C. 弁慶 D. 源頼朝

Q2 剣豪で「五輪書」を書いた宮本武蔵。出生地と伝わる場所は岡山県美作市(旧大原町)と兵庫県内のどこですか?
A. 高砂市と赤穂市
B. 高砂市と太子町
C. 高砂市と姫路市
D. 太子町と宍粟市

Q3 淡路島にも多く文学碑がある俳人・松尾芭蕉が訪れた町で、一番西のはずれの町はどこですか?
A. ひめじ B. あかし
C. すもと D. いりさき

Q4 「小倉百人一首」に収められている大江匡房歌で、次のカッコに入る兵庫県の地名はどれですか?
[]の尾の上の桜咲きにけり外山の霞立てずもあらなむ
A. 豊岡 B. 加古川 C. 柏原 D. 高砂

兵庫県ゆかりの文学が ウェブ上に満載。

[ネットミュージアム兵庫文学館]



<http://www.bungaku.pref.hyogo.jp/>

ウェブサイト上で遠藤周作、陳舜臣、水木しげるなど兵庫県ゆかりの文学・作家にまつわる企画展が見られる。話題の「平家物語」など古典文学の中の兵庫も興味深い。上記の「兵庫文学館検定」は初級・中級・上級編に挑戦できるのでぜひ。

上から順に――
「太陽の子」 灰谷健次郎 作
70年代の神戸。小学6年生の少女が家業の琉球料理店を手伝いながら、泣いて笑って懸命に生きる姿を描く。
「風の歌を聴け」 村上春樹 作
高校時代を神戸で過ごした村上春樹。海辺の街に帰省した大学生の(僕)を描く本作では神戸の町を思わせる描写が。
「一千一秒物語」 稲垣足穂 作
星や月の話が登場する表題作をはじめ、「星を売る店」など全9編。神戸モダニズムの旗手にふさわしい世界。
「異人館周辺」 陳舜臣 作
神戸に生まれ、現在も暮らす作者が、神戸を舞台に鮮やかな筆致で紡ぎ出す9編のロマンティック・ミステリー。

「バナナ」 獅子文六 作
大学生の主人公がバナナの輸入業で儲けを企み、神戸の叔父を訪ねる。舞子にむむ移情閣を訪ねるシーンが印象的。

「花の降る午後」 宮本輝 作
北野でフランス料理店を営む美しい未亡人。店が乗っ取られそうになったり、青年との恋物語も。異人館も登場。

おすすめ! 神戸文学



久保さん自身が読んで感動した絵本で、比較的なじみのあるアメリカと日本以外の世界の作品を集める。今では出版社から直接届く新刊本も本棚に。久保さんの優しい笑顔に見守られ、ゆったりと本を読んで過ごしたい。



久保良道さんのおすすめ

- 1 「たいせつなきみ」
マックス・ルケード 作／セルジオ・マルティネス 絵／
ホーバード・豊子 訳
木のかびとが貼られる(だめじるしシール)。「絵本で私の(だめじるしシール)がはがれていった」と久保さん。
- 2 「ふくしまからきた子」
松本 猛 作／松本春野 作・絵
福島から広島へ引っ越してきた女の子と友だちとの交流の中、(ほうしゃのう)についても考えるお話。
- 3 「バスラの図書館員
イラクで本当にあった話」
ジャネット・ウィンター 作／長田 弘 訳
戦火の中で図書館の本を救ったバクルさん。「本には私たちの歴史が全部詰まっている」とのメッセージが。
- 4 「木を植えた男」
ジャン・ジオノ 作／フレデリック・バック 絵／
寺岡 襄 訳
荒れ果てた地を、1人で緑の森に蘇らせた男の話。自然や旅の経験など大切なことを思い出させてくれる。
- 5 「ヤクーバとライオン」
ティエリー・デデュ 作／柳田邦男 訳
アフリカの少年ヤクーバの(戦わない勇気)と冒険の話。翻訳はノンフィクション作家・柳田邦男氏。

館長さんの想いが、本棚にぎっしりと。



本を借りるときは、図書カードの帯出者氏名欄に自分で名前を書く。「本への愛着が増すよう、コンピュータ任せにしない」と天野さん。

天野まさみちさんのおすすめ

- 1 「3びきのかわいいオオカミ」
ユージー・トリビザス 作／
ヘレン・オクセンバリー 絵／こだまともこ 訳
『3びきの子豚』のオオカミ版。悪者扱いされることの多いオオカミが襲われるなど、微笑ましく描かれている。
- 2 「父は空 母は大地
インディアンからの手紙」
篠崎正喜 絵／寮 美千子 編・訳
自然を敬い、自然とともに生きてきたインディアン。彼らが口から口へと伝えてきた大切なことが綴られる。
- 3 「タンゲくん」 片山 健 作・絵
自由主義ネコ「タンゲくん」を通して、ネコとの正しいつきあい方がわかる。迫力ある絵から目が離せない!

どんぐり文庫

どんぐりぶんこ 西宮市

「子どもたちに思い切り本を読んでもらいたい」と1975年から自宅居間を開放し、会員制の文庫を始めた天野さんご夫妻。現在絵本と児童書の蔵書は6300冊。運営を地元の学生が手伝うなど、地域に根差した場所として愛されている。「この文庫は、読書自由空間。寝転がって読んでも平気。本とふれあう時間に出合っしてほしい」と天野まさみちさん。自分のペースで本と遊ぶ子どもたちがイキイキ過している。



天野さんが目を通して選んだ本は、中・高校生や大人向けもたくさん。文庫のオープンは週2日で、会員は1回に6冊、2週間借りられる。会員でなくても文庫内で本を読むことはでき、「本が好き、子どもが好き」な学生スタッフがサポート。第3土曜午後3時からのおはなし会も人気。



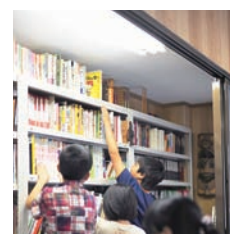
▷西宮市仁川町2-9-40 ☎0798-54-3596 水曜の午後2時～午後5時、土曜の午前10時～正午と午後2時～午後5時(事前連絡で各日午後8時まで)開館 臨時休あり 会費=1ヵ月100円 ①なし 道案内/電車→阪急今津線仁川駅から東へ徒歩約5分車→中国自動車道宝塚ICから武庫川を越え、県道337号線を南へ約10分

くぼつち文庫
くぼちぶんこ 一赤穂市
のどかに田んぼが広がる集落の1軒に、世界各国の色彩鮮やかな絵本が並ぶ「くぼつち文庫」。元小中学校校長の久保良道さんが「自分が感動し、力をもった絵本の世界を1人でも多くの人に知ってほしい」と自宅倉庫を改装し、気に入った作品を買いそろえて100カ国3000冊もの本を開放する。思い思いに絵本の世界で遊ぶ子どもたちの姿が微笑ましく、大人も感性を広げてゆったりできる空間。

久保さんが地元紙に連載する絵本のエッセイをまとめた『絵本で世界を旅しよう』(文芸社・1,200円)。父との思い出を綴った『父と歩んだ六十年』、赤穂市有年地区の歴史を記した本などの著書も。地元の歩んだ歴史を残そうと筆を執っている。



▷赤穂市有年原434 ☎0791-49-2089 第2・4土曜の午前10時～午後3時のみ開館 臨時休あり 会費=なし ①なし 道案内/電車→JR山陰本線有年駅から西へ徒歩約10分 車→山陽自動車道龍野西ICから国道2号線を西へ約25分



個人図書館が
おもしろい!
集めた蔵書を惜しみなく開放する個人図書館。語り継ぎたい絵本や良作の数々には、館長さんの思いも凝縮。子どもはもちろん、大人の読書欲も満たしてくれるはずだ。

開館は第2・4土曜日。貸し出しの冊数制限、返却期限はなく、名前記入のみで誰でも借りられるので、子どもや大人が気軽に訪れる。「子どもがいつでも絵本に親しめるように」と周辺の小中学校にも本を置いてあるとか。

通いたくなる 本屋さん。

店主の好みや思いが書棚からあふれる専門書店や古書店には、通って本を探し、店主と話すほどにファンになってしまう魅力がある。まずは、姫路で人気のユニークなブックワールドへ！



姫路城へと伸びる大手前通りを東に入った路地に、隣り合って存在する2軒の古書店。いずれも、今年1月に惜しまれて閉店した古書専門のブックカフェ「ツリーハウスブックストア」の流れを汲むお店。本好きにはたまらない場所だ。

右側の「おひさまゆうびん舎」は、「ツリーハウス」のスタッフだった窪田泰子さんが、絵本や児童書の古書を独立させ、昨年3月にオープン。「もともと絵本が好きで、子どもの心に寄り添う仕事がしたい」と思い、12

年間読み聞かせの活動を。家の近所なので「ツリーハウス」の常連でした。左側の「されど…inツリーハウス」の主は、加古川で古民家ブックカフェ「されど…」を営んでいた朝山節子さん。「ツリーハウス」の店主・清水健司くんとは以前からの知り合い。閉店すると聞いてとても残念で、「ここがなくなったらあかん！」と引き継ぐ決心を「と、お隣同士を実現させた。」

おふたりに古書店を営む魅力をうかがうと、「幼い頃に読んだ絶版の絵本を見つけて喜ばれるお客さんがいると、私もうれしくなる」と泰子さん。「たくさんの本から心引かれる1冊に出合うのは、お宝を探す気分。カフェ利用の人には貸本サービスも。町の小さな図書館を目指したい」と節子さん。古書の楽しみを深めてくれた「ツリーハウス」の志はしっかりと受け継がれ、新たな芽が育っている。

本好きは、もう通っています！ 姫路、お隣同士の古書店へ。



店内もかわいい「おひさまゆうびん舎」。真っ赤な郵便ポストの上に、素敵なマグネットを発見！

本店のブックカフェもリニューアル！

されど…salut

されど…サリュ！ 加古川市

名建築・加古川図書館のそばにある、築70年の古民家を改装した「されど…」の本店がリニューアル。今年春からフードが充実し、ヘルシーな週替わりランチ、オリジナルのカレーランチほか、自家製ケーキとコーヒーもお薦め。レトロな雑誌や古書を片手に、わが家にいる気分でくつろぎたい。

スタッフ2人は元友人同士で大のカフェ好き。週替わりランチ800円など体と心に優しい料理を。



▷加古川市加古川町木村227
☎079-440-1024
午前11時～午後8時 月曜、第13日曜休 ②あり
道案内/電車→JR神戸線加古川駅から南西へ徒歩約10分 車→加古川バイパス加古川ランプから県道18号線を南西へ約3分

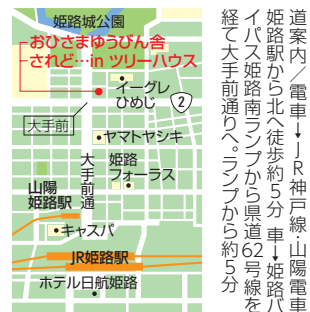


おひさまゆうびん舎

▷姫路市本町68
☎079-288-6597
午前10時～午後7時 木曜、第2・4水曜休、臨時休あり ②なし

されど…inツリーハウス

▷姫路市本町68
☎079-284-8844
午前11時～午後7時 水・木曜休 ②なし



A [されど…inツリーハウス]の店内は本の山。前店から継いだ3,000冊に節子さんの1,200冊をプラス。文学、芸術、歴史、趣味、哲学など多彩なジャンルに胸が躍る。B 節子さんお薦めの本。エリナー・ファッションの自伝物語「マローンおばさん」、「西の魔女が死んだ」梨木香歩・作、店名の由来になった「されどわれらが日々」柴田翔・作。C ジャズが流れる2階はブックカフェ。ケーキセット750円。



A [おひさまゆうびん舎]は2階に。絵本の世界が広がり、センスよく本を配置。泰子さんが長年集めた絵本のほか、児童書や一般書の古書も。B 泰子さんお薦めの本。「ぼくはイスです」長新太・作・絵(絶版)、「ぼくのつくえはぼくのくに」佐藤さとる・作 村上勉・絵、心に染み渡る「さよならのあとで」H・S・ホランド・詩 高橋和枝・絵。C ミニギャラリーでは原画展も。8・9月は夏葉社フェア 高橋和枝原画展を開催。



互いに「節子さん」「やっさん」と呼び合うおふたり。世代は異なっても本や絵本を愛する誠実な心はひとつ。読みたい1冊を探す強力な助手人なので、気軽に相談してみたい。

元図書館司書だった平松三代さんが選ぶ児童書は、読んでおもしろく満足感が残り、希望へとつながる本ばかり。「最近の子どもはことばを楽しい力が弱っていて、想像を膨らませられない。本を読んで笑えたり泣けたりするのは、ことばを発した人の気持ちを思うからでしょ?」。心を耕せる本は、大人にとっても必要だ。



1975年、日本で10軒目の児童図書専門店としてオープン。「棚に並ぶのは、すべて私が読んだ本」と快活に話す平松さん。

ひつじ書房

ひつじよぼう | 東灘区



夏なら虫捕りにまつわる本など、季節にタイムリーなテーマで本を紹介したりと、独自の工夫が凝らされている。

▷神戸市東灘区岡本1-2-3
☎078-441-6869
午前10時～午後7時 木曜休 ②あり 道案内/電車→JR神戸線摂津本山駅から東へ徒歩すぐ 車→阪神高速神戸線深江出口から北西へ約5分



おすすめは…

「スーザンのかくれんぼ」
ルイス・スロポドキン 作/やまぬしとしこ 訳
偕成社 1,200円

スーザンの隠れ場所探しに大人も協力してくれるが、いつも見つかってしまう…。ユーモアあふれる物語。

「せいめいのれきし」 パージニア・リー・パートン
文・絵/いしいももこ 訳

岩波書店 1,600円
地球上に生き物が誕生してから人間の時代になるまでの長い歴史が、詩情あふれる文と挿絵で綴られる。

一生ものの、本との出会いを求めに行こう。

「新刊・古本の垣根を越えて、本好きな人に足を運んでもらいたい」と、「海文堂書店」の一角で「昨年にも新設された古書コーナー」。神戸と明石の古書店4店が本棚を置き、社会科学や郷土史など得意とする分野の古書を並べる。「装丁も絶妙。ぜひ手に取って楽しんでほしい」と神戸の「イマヨシ書店」店主の今吉祝さん。温故知新を実感しよう。



「やまだ書店」[一栄堂書店][イマヨシ書店][あさかぜ書店]店主が持ち回りで店頭に。「得意分野は昭和なモノ」と言う今吉さん。

海文堂書店

元町・古書波止場

かいぶんどうしよてん
もともちこしよはとば | 中央区



〈古書波止場〉なる粋な名前を持つコーナーは、書店2階の一角。良書が集まる港で宝物を見つけよう。

▷神戸市中央区元町通
3-5-10 2F
☎078-393-0246
午前10時30分～午後7時 無休 ②なし 道案内/電車→JR神戸線・阪神元町駅から南西へ徒歩約5分 車→阪神高速神戸線京橋出口から西へ約5分



おすすめは…

「歌劇」
6,000円
大正9年に創刊された宝塚歌劇機関誌の1冊。レトロなイラストに斬新な躍動感が漂う。現在、通巻1,000号を突破。



「満州丸」
52,500円
明治38年に発行された観戦記念写真集。右から左に流れるタイトル文字からも、時代の匂いが伝わってくる。

